

ミニマルインターベンション補綴学実習

Training of Minimal Intervention Prosthodontics

キーワード

- ① 高度先進口腔医学
- ② 歯科補綴学
- ③ ミニマルインターベンション
- ④ 接着歯学
- ⑤ デジタルデンティストリー

授業概要

ミニマルインターベンションとは、患者のニーズやQOL向上のため、歯の切削・抜髄・抜歯などの不可逆的な侵襲を避け、必要最小限の処置で口腔の機能・形態の再構築や修復を目指す臨床概念の一つであり、本実習では、既存の概念や常識にこだわらず診療上の問題や疑問点を抽出し、必要な予防法、診断法、治療法に関する基礎的技能の修得を目指し、先進的材料や治療法の開発に向けた基礎的研究計画の立案やデータの収集・分析を行い、ミニマルインターベンション補綴学の臨床研究手法を身につけることを目的として開講する。

授業科目の学修目標

歯の切削・抜髄・抜歯などの不可逆的な侵襲を避けるミニマルインターベンションは、必要最小限の処置で口腔の機能・形態の再構築や修復を目指す臨床概念の一つであり、本実習では、必要な予防法、診断法、治療法に関する基礎的技能を習得することを目的とする。

授業計画

- ① 歯科用接着剤を用いた研究計画立案実習 12コマ
実習形式で、市販の接着剤に関する問題点を抽出して、研究計画法の立案について学修する。
- ② 表面分析法に関する基礎実習 12コマ
実習形式で、表面分析に関わる機器の分析原理を理解した上で、操作訓練を学修する。
- ③ レジン接着剤の重合挙動に関する基礎実習 12コマ
ラジカル重合反応について理解を深め、ESR法によるラジカル測定法の手技を学修する。
- ④ 被着体特性による接着試験 24コマ
各種金属からセラミックスを対象とした剪断・引張り接着試験方法を教授し、自験する。

実習担当教員 井野智 濱野奈穂 福山卓志

教科書および参考書

接着歯学 第2版, 医歯薬出版, 一般社団法人日本接着歯学会.

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

日常臨床で使用されている歯科用接着剤の使用法・注意点を理解し、実習に臨むこと。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 接着剤の生化学的特徴を理解した上で研究計画の立案ができる。
- ② 界面構造の物理学的理論を理解した上で表面分析を実践できる。
- ③ ESR法によるラジカル濃度分析法を理解した上で分析ができる。
- ④ 接着試験の目的や方法を理解した上で実施することができる。

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	実技	その他
10%	0%	0%	20%	0%	30%	40%	0%

評価の要点

- ・試験は、授業計画で行った講義の知識の理解度を判定する。1回10%
- ・成果発表は、講座内での研究発表会にてプレゼンテーションを行い判定する。1回20%
- ・口頭試問は、授業終了後毎回行い知識の理解度を判定する。0.5%×60回=30%
- ・実技は、授業計画の4項目について判定する。10%×4項目=40%

理想的な達成レベルの目安

ミニマルインターベンション補綴学実習の達成レベルは80%以上とする。